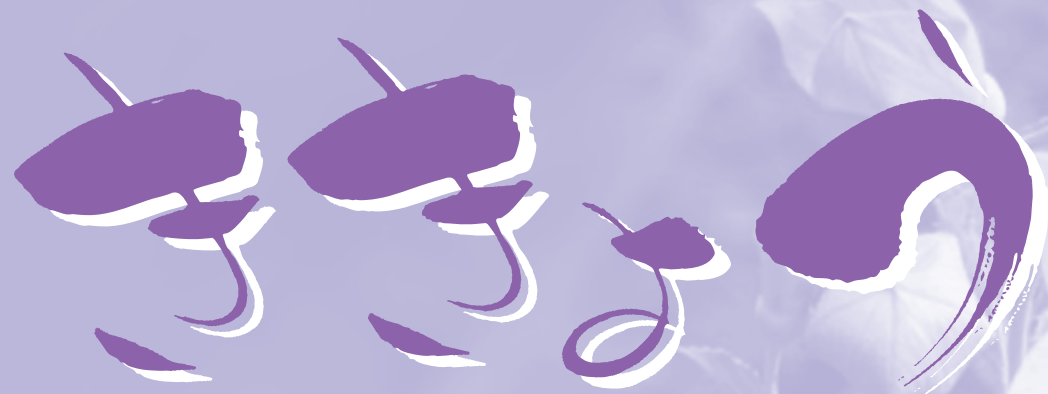




事業紹介特集

- 高槻けやきの郷、岩戸ホーム・サンヒルズ紫豊館
「あんしんケアコールセンター24」 ————— 4
関連 岩戸スタッフの研究「残存能力を活かした自立への支援」が最優秀賞受賞 — 3

- 巻頭言／工夫を凝らし新たな手法で「つながり」
難局を「のりこえる」社会福祉法人の役割継続が使命 — 2
言語聴覚士と一対一で話す力、理解力を養う ココリスが言語訓練開始 — 3
介護福祉専攻の学生対象にオンラインガイダンス 大阪エリア3施設 — 3
食品衛生向上の取り組み評価 優良施設知事表彰 第二愛育園 — 3
より高い日本語能力習得目指し対策講座開く 在籍外国人支援の「つぼみの会」 — 5
こころに一息を—マインドストレッチ ライフ・ステージ 舞夢 舞鶴エリアスタッフ — 5
先輩からのメッセージ ————— 5
(ココリス)浅田祥平さん、(認定こども園 一津屋愛育園)安田萌恵さん
災害想定! よい子ネット配信し園児引き渡し訓練 認定こども園 正雀愛育園 — 6
入居者と在宅の交流図るリモートレクリエーション 岩戸トレーニングセンター — 7
トピックス ————— 8



社会福祉法人 成光苑

2021
新年号

握り寿司の“面前調理”を実施 調理員の手さばき楽しみ、 6ネタの盛り合わせ味わう



吹田竜ヶ池ホームは、水の街(ユニット名)で本格的な「握り寿司」の面前調理を実施しました(11月20日)。
同施設と契約している給食委託業者の協力で毎月開いていますが、要望が多いのは握り寿司。この日は鰯、鮭、海老、穴子、玉子、稲荷全6ネタの盛り合わせ。コロナに対応、やや距離をおいてご入居者の目の前で大将(調理員)の手さばきを楽しみ、そのお寿司を味わう楽しみも人気の秘密です。

「どうぶつさん見えた!」 国道沿いの園庭に動物のイラスト入りフェンス設置

第二愛育園・きりん夜間愛育園は、昨年拡張された園庭(「ききょう」2020夏号掲載)の国道沿いに、キリン、クマ、ウサギ、リスなど動物のイラストが入ったフェンスを設置しました(10月30日)。
登園時には「どうぶつさん見えた!」と眺めながら、親子の会話がはずむ光景が見られ、新しいキャラクターが両園の明るく楽しい雰囲気を盛り上げています。



法被姿の5歳児 園生活最後のお神輿担いでわっしょい! 千里丘愛育園初の秋まつり

千里丘愛育園は、クラス分けなどを講じて秋まつりを行いました(11月21日)。
5歳児にとって保育園生活最後のお祭りであって、ラップの芯、段ボール、画用紙などを材料にスタッフと子どもたちが手作りの「お神輿(みこし)」を制作。法被姿の5歳児は保護者と「わっしょい!わっしょい!」とお神輿担いで園庭を練り歩きました。手作りの仮想通貨を使った「お店屋さんごっこ」も大好評、子どもたちはスタッフが準備した実際のおにぎり、サンドウィッチ、から揚げなど買い物を楽しみました。



貼り絵、手芸など出品 元気な日常うかがえる「岩戸いろいろ展」

岩戸ホームは、ご入居者が自室にこもりがちになる現状に対応するために、目標や意欲、楽しみをもって生活してもらいたいという願いから「岩戸いろいろ展」を行いました(11月12日~25日)。
「手作りしたもの(作品)をみなさんにご紹介ください」と呼びかけ、特養・サポートハウス・デイサービス・小規模多機能のご利用者から折り紙、手芸、貼り絵など一年を通してコツコツと作製された多くの作品が寄せられました。元気に生活されている日常の様子が見え、うかがえました。



〔法人理念〕

1. 個人の尊厳を旨として、その人にふさわしい最善のサービスの提供に努める。
2. 地域に開かれ、愛され、地域福祉の拠点となる施設経営を目指す。
3. 専門的知識、技術の研鑽に努め、誇れる施設を目指す。

〔サービス目標〕

1. オンリーワンとナンバーワンを目指す。
2. オンリーワンとはその施設にしかない特色の創造であり、ナンバーワンとはご利用者の処遇の満足度を高めるため、常時積極的な取り組みをすることである。

〔老人施設経営方針〕

1. 安らぎのある生活と環境を提供し、生きる喜びを創造する。
2. 介護機能の多様化を図り、ご利用者に対し、総合的なサービスの提供をする。
3. 地域の一員として、地域福祉の活性化に貢献し、超高齢社会のセーフティーネットの機能を発揮する。

〔愛育園経営方針〕

1. 新しい時代に生きる力の基礎を培う。
2. 女性の社会参加の支援に貢献する。
3. 地域子育て支援を積極的に行い、子どもの成長を喜ぶ社会の実現に寄与する。

【発行日】2021年1月

【発行】社会福祉法人 成光苑 (理事長 高岡 國士)
〒566-0001 大阪府摂津市千里丘3丁目16-7
TEL.06-6330-3776 FAX.06-6388-9551
URL. <http://www.onyx.dti.ne.jp/~seikouen/>

★「ききょう」の由来

創業者が愛した京都府福知山市は、冷泉を利用して地元に開放するお風呂を作り、当法人として老人施設を初めて開設した地。その福知山市の花である「桔梗」から名づけられました。「ききょう」の花言葉は「変わらぬ愛」「誠実」「感謝」「気品」。

QRコードで簡単アクセス!



巻 頭 言



工夫を凝らし新たな手法で「つなぎ」難局を 「のりこえる」社会福祉法人の役割継続が使命

理事長 高岡 國士

年が明けましても、やはり新型コロナウイルスを取り上げざるを得ない状況が続いています。日ごろから社会福祉法人成光苑の事業推進に多大のご協力を賜り厚くお礼申し上げますとともに、皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのことと存じます。

緊急事態下も保育所は原則、継続開所

新型コロナウイルス対策として、政府は首都圏の二都三県を対象に二月八日から実施の緊急事態宣言を出しました。引き続き関西の大阪、兵庫、京都を含む二府五県にも緊急事態宣言が発令され、コロナ感染拡大の抑え込みに全力を上げています。一方、厚生労働省は「保育所は原則 継続開所」の方針を打ち出しています。(二月十九日現在)

緊急事態宣言が解除されても、現在は治療薬やワクチンが量産前のため、新しい生活様式を取り入れて新型コロナウイルスと共存(ウィズコロナ)していかなくてはなりません。未曾有の経験を経て、コロナ後(アフターコロナ)の世界を展望しますと、この時代の変化に対応し私たちが取り組む社会福祉事業も変革期に入ってきたとの認識を新たにしており、特定の意識・価値観や行動様式を今後も継続せざるを得ないと考

えています。

喜ばしい福祉従事者へのワクチン優先接種

しかしながら、こういう時代だからこそ、社会福祉法人としての社会的弱者への対応や地域における公益的な取り組みをコツコツと継続することが本来の姿であると信じています。

福祉関係者が真のエッセンシャルワーカーとなり得るのが問われている昨今ですが、コロナワクチンの優先接種の候補に医療関係者とともに社会福祉施設の従事者も挙げられていることは大変喜ばしいことであります。

インフルエンザ対策につなげたコロナ対応

「ウィズコロナ」「アフターコロナ」の時代にあつても、社会福祉法人としての役割を継続するため、難局に対し工夫を凝らしながらこれまでとは違う手法で「つなぎ」「のりこえる」ことが重要です。

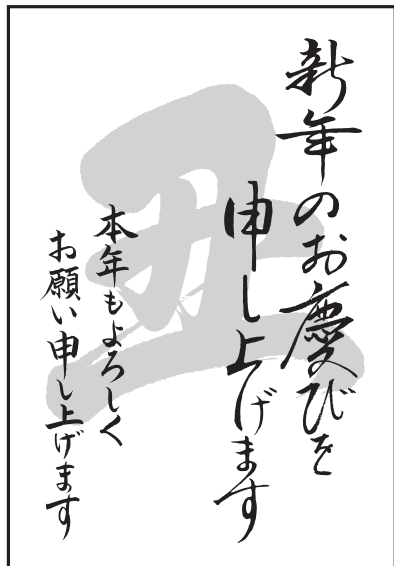
感染拡大防止面からの取り組みについては、新型コロナウイルス対策が、インフルエンザ対策に対する一定の効果につながったり、ICT化の二環によるオンライン会議アプリやTV会議システムの本格的な活用が、スタッフやご利用者家族などとのコミュニケーションのさらなる充実、会議関係

交通費など経費節減につながったことで、今までにない成果を得ることとなりました。

スタッフにも行動変容の心がけを

「ウィズコロナ」「アフターコロナ」を踏まえると、成光苑のスタッフにも一定の行動変容を心がけていただくことで、ご利用者の安全・安心・安定を図ることができると考えます。「優しい笑顔で人々に関わり、思いやりの心と言葉をもつて地域住民と交流すること」により、われわれと関わるすべての人を笑顔にしたいと思います。

「笑う門には福来る」を祈念いたしまして、成光苑スタッフが二丸となり、一層精進してまいりますので、関係者の皆様には、今後も変わらぬご支援ご協力をよろしくお願い申し上げます。



入居者と在宅の交流図るリモートレクリエーション実施

大画面に“ハワイ海岸”を バーチャル背景設定「一緒に体操を！」

岩戸ホームトレーニングセンター



岩戸ホームトレーニングセンター(特養南館B1F)では、コロナの影響で施設入居者と地域の方との交流の機会が難しくなっていることに対応、新しい試みとして、ずずらんホール(サービス棟2F)の大画面設備を活用し特養部門と在宅部門のみなさんを繋ぐリモート(オンライン)レクリエーションを行いました(10月21日)。

大画面に“ハワイ海岸”をバーチャル背景設定。「一緒に体操を！」と在宅部門スタッフの呼びかけに「わー！ハワイの人と話ができる！」とリアルな背景に大歓声が上がりました。高齢者の方には、体操、じゃんけん、しりとりなど画面越しの離れた場所(リモート)の複数の相手とタイムリーに触れ合えることが不思議な体験に感じられたようです。

サンヒルズ紫豊館が映画観賞会

リクエストに応え月1回の映画会実施へ

高槻けやきの郷 デイサービスセンター



高槻けやきの郷デイサービスセンターでは、地域交流スペースにベッドシートを利用したスクリーンを特設、映画鑑賞会を初めて行い、ご利用者26名が参加されました(10月31日)。

上映作品は1921年に公開されたチャップリン主演のサイレント映画「キッド」(監督・脚本もチャーリー・チャップリン)。ミニシアターのような雰囲気、ご利用者は「よく笑いました。懐かしい」と話されていました。

シートの大型スクリーンに園児の元気な遊戯風景も

サンヒルズ紫豊館では、食堂の 22日)。
天井からベッドシートを吊るした大型スクリーンで映画観賞会を開催、31名が参加されました(11月



「おじいちゃん、おばあちゃん、いつまでも元気でね」と健気に気遣う様子(写真)をスクリーンに投影。午後には、映画「男はつらいよ(主演 渥美 清)」を上映、青春時代を思い出されたのか、真剣にご覧になっている姿が印象的でした。

▼喫茶ひだまり再開

岩戸ホームの地域交流スペース「喫茶ひだまり」が11月から予約制で利用可能になりました。飛沫ガードパネルやパーティションを設置するなどコロナ対策をとっています。また、岩戸ホームトレーニングセンターも自治会長会にチラシ配布など協力を求め12月から利用可能となりました。
喫茶ひだまりはしばらく地域の方にご遠慮願っていましたが、「いつになったら？」と再開を望まれる問い合わせも多く、感染予防対策のルールを明確にし、自己管理のもと利用していただけるよう対応しました。
「ウィズコロナ」であっても、状況を見極めながら地域の方の健康維持・向上に取り組みたいと考えています。

▼ご家族の面会を予約制に

吹田竜ヶ池ホームでは、昨年11月中旬から特養ご入居者とご家族の面会を月々金曜 祝日は1日3組、日曜は4組までとする予約制を実施しています。

コロナ対応として、1Fロビーの面会ブースには、スタッフ手作りの透明ビニールカーテンと亚克力板を設け飛沫拡散を防止、面会前後は手指消毒をお願いするなど感染防止の徹底に努めています。なお、オンライン面会(ききょう)2020夏号掲載は毎日行っています。

▼獲物は松茸！味覚釣り

岩戸ホームは、特養ご入居者(コスモス通り、すいせん通り)のフロア合同大運動会を開催しました(10月28日)。2フロアのご入居者の交流が目的です。
うちわリレーや玉入れ、味覚釣りが行われ、くに味覚釣りでは、並べられた秋の味覚、柿、栗、梨、紅葉、秋刀魚など10種類以上の中から松茸に狙いを定め、釣り竿で上手に釣りあげられ大歓声が上がりました。



▼なす田楽、栗ご飯の「秋のお楽しみ会」

サンヒルズ紫豊館は、昨秋「秋のお楽しみ会」を行いました(10月21日)。例年開いている運動会の代替行事です。
実行委員によるハンドベル演奏や寸劇「どるかに合戦」を鑑賞したあと、昼食は、きのこソースのハンバーグ、なす田楽、栗ご飯、さつま芋のムースと秋の味覚をふんだんに盛り込み、みなさん、舌鼓を打って大満足されていました。



言語聴覚士と 一対一で 話す力を養う

ココリスが言語訓練を開始

ココリス(児童発達支援・放課後等デイサービス)は昨年11月から、言語聴覚士による言語機能や摂食・嚥下機能に対する能力の向上を図るための訓練を行っています。同6月からスタートした「個別療育(「ききょう」2020秋号掲載)」の一つです。

言語訓練は、言語聴覚士と一対一で手遊び歌、絵カードなどを使ってやりとりする力や理解力を養う取り組みで、発音が不明瞭なお子さんには舌や唇の動かし方の練習なども行います。摂食・嚥下訓練は、食形態(食べる機能に応じた食事)の選択や姿勢の調整、口の機能向上が目的のマッサージなどの訓練を行います。

訓練終了後、保護者の方に自宅でのホームワークを指導、お子さんの様子を共有し様々な相談に応じています。



保護者にホームワークの指導も



研究テーマ「残存能力を活かした自立への支援」が最優秀賞受賞 定期巡回・随時対応型訪問介護看護サービス 岩戸ホームの澤田、蘆田両スタッフ発表 第15回研究発表会

新型コロナウイルスの影響で延期されていた第15回研究発表会(成光苑主催)がオンライン開催され(11月28日)、岩戸ホームの定期巡回・随時対応型訪問介護看護の蘆田久美(右から3番目)、澤田千津子(同4番目)両スタッフが発表した「残存能力を活かした自立への支援」が最優秀賞を受賞しました(4面に関連記事)。

城仁士審査員長(神戸大学名誉教授)から「高齢者介護の基本

の1つである残存能力の活性化に焦点を絞り、(中略)自力で更衣できる過程を詳細に分析している。本人の反応から自信を取り戻している様子が伺える」と優れたポイントを含め講評されました。

日頃の丁寧な取り組みの積み重ねが高く評価されたもので、スタッフの喜びはもとより、今後も住み慣れた自宅や地域で暮らしたいと望まれる方からの期待に真摯にこ

「オンライン業界研究セミナー」に参加

大阪エリア3施設の 人財確保プロジェクトメンバー

高齢者部門大阪エリア(せつつ桜苑、高槻けやきの郷、吹田竜ヶ池ホーム)では「オンライン業界研究セミナー(大阪保健福祉専門学校主催)」に各施設の人財確保プロジェクトメンバーが参加、学生(介護福祉科2年35名)にオンラインでガイダンスを実施しました(10月19日)。

主なプレゼンテーションツールはパワーポイントで事前の配布用資料をもとに、スタッフ同士の交流、人材育成制度などを紹介、安心して長く働いてもらえる働きやすい職場環境をアピールしました。画面を通して学生さんがパンフレットに目を通し真剣に聴講する様子が伝わってきました。

人材育成制度など紹介― 学生対象にオンラインガイダンス



よい子ネット配信し園児引き渡し訓練 認定こども園 正雀愛育園

認定こども園 正雀愛育園では、地震発生に伴う津波を想定した「引き渡し訓練」を行いました(10月29日)。

子どもたちはスタッフの指示に従い、屋上まで3分56秒でスムーズに避難を完了。15時50分には「よい子ネット(園と保護者を結ぶ安全安心の連絡ツール)」のメール配信を利用し、保護者の方へ迎えに来園されました。

保護者の方からは「具体的なイメージがわかった」「こういう(引き渡し)訓練で安心ができる」などの声が聞かれ、引き渡し訓練の必要性を痛感、スタッフも災害時の誘導法などを再確認する機会となりました。

「ぷーの手洗い教室」開く

きりん夜間愛育園



きりん夜間愛育園では、日本細菌検査株式会社(大阪市)の社員5名が来園し「ぷーの手洗い教室」を行いました(11月8日)。

同社のオリジナルキャラクター「ぷー」と同社員が正しい手洗い方法をイラストやクイズを交えて説明、「手洗いのうた」をジェスチャー付きでみんなで唄いました。「粘土こね」では、一見汚れていない手に「魔法の水(同社の薬品)」をかけると、汚れた手

が黒くなる実験、「わーっ!黒くなったー」と園児から驚きの声。教えてもらった手洗いできれいな手になりました。

「火の中に入って熱くないの?」

認定こども園 一津屋愛育園

認定こども園 一津屋愛育園では、摂津市消防本部署員立ち合いのもと、園庭で避難訓練を行いました(11月11日)。スタッフは通報訓練と消火訓練、子どもたちは非常階段を使って避難する訓練でした。

今回はコロナ対策もあり、りす組(5歳児クラス)25名のみが参加。質問コーナーでは「消防車はどこで売ってるの?」とか「火の中に入って熱くないの?」など子どもらしい質問が飛び出しましたが、同署員の方には真摯に対応していただきました。



「せつつしこども展覧会」 4、5歳児11名が最優秀賞など受賞

認定こども園 一津屋愛育園

認定こども園 一津屋愛育園のうさぎ組(4歳児)と、りす組(5歳児)は摂津市立コミュニティプラザで開かれた「第32回せつつしこども展覧会」(摂津市主催)に出品し、最優秀賞2名、優秀賞3名、奨励賞6名、計11名が受賞しました(授与式



10月28日)。

同園は、絵画造形に力を入れていることも保育の特色になっています。授与式は同園遊戯室で行われ、受賞した子どもたちはみんなから拍手をもらい嬉しそうな表情が印象的でした。

給食の栄養、食品衛生向上の取り組み評価 令和2年度優良施設知事表彰受ける 第二愛育園

第二愛育園は食品衛生関係優良施設として、令和2年度大阪府保健衛生関係功労者・優良施設知事表彰を受賞しました(11月11日)。新型コロナウイルス感染症に対応するため、関係者が一堂に会する式典は行われず、同愛育園には後日、吹田市保健センターで賞状が授与されました。



高岡理事長へ報告する大石里美栄養士

吹田市保健所の推薦により申請、同保健所員による現地確認が実施され、集団給食に係る栄養、食品衛生、調理、環境衛生など保健衛生の向上に尽力し、その功績が顕著なことが評価されたものです。この表彰は約10年前に続き2回目。

引き続き安心・安全を最大の目標に、子どもやスタッフに楽しみにももらえる給食づくりに取り組みたいと考えています。

▼大豆を潰してこねてみそ作り

きりん夜間愛育園では、4、5歳児クラスの11名が4グループに分かれて、みそ作りを体験しました(11月18日)。

ビニール袋に入れた大豆を「これがみそになるんだって」とつぶやきながら一生懸命に潰し、それを麴とこね合わせて団子を作り、容器に2、3個ずつ入れて押し潰して空気抜きをしました。子どもたちには力作で少し疲れた表情も見られましたが「できあがり」は2月頃なんだよ」と楽しみにしている様子でした。

▼「あつたー!」歓声あがるお芋掘り

くろみ小規模保育園は、近隣の姉妹園ぐるみ愛育園の園庭でさつまいも芋掘りを行いました(10月29日)。

例年ならぐるみ愛育園と合同ですが、今回は日程を分けて行ったものです。

「おきなかぶ(昔話)」をスタッフがアレンジした「おきかないもの寸劇鑑賞のあと、園児たちはお待ちかねのさつまいも芋掘り。蔓(つる)を恐る恐る引つ張る子、「ないな?」、「あつたー!」と大小のお芋を嬉しそうに握りしめる子も見られました。



▼「あつたー!」歓声あがるお芋掘り

くろみ小規模保育園は、昨秋、園庭で運動参観を実施しました(10月24日)。例年は近隣の小学校体育館で運動会を開いていましたが今回は子どもたちも慣れた園庭で伸び伸びと体を動かし遊んだり。保護者の方も間近から応援し親子の触れ合いを楽しめました。小さな運動会でしたが、保護者からは「ゆつくり子どもの姿を見ることができてよかった」といった声が寄せられました。



▼ハロウィンパーティー

東生野愛育園は、初めての試みとしてハロウィンパーティーを行いました(10月29日)。

園行事の中止や縮小もあり、子どもたちにも楽しい思い出を、という願いからです。

密を避けるため各クラスをグループ分けし、5歳児クラスは魔法使い・お化けかぼちゃなど、小さいクラスはかぼちゃに扮装したいへん盛り上がりました。

最後に魔女に仮装した高橋佳子園長から、ハロウィンの特別な言葉「トリック・オア・トリート!」(いたずらか、それとおもてなし)のかけ声でお菓子をもらい大満足の一日となりました。



24時間365日
安心をお届け

介護・看護が連携し在宅生活を支えます

定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業 「あんしんケアコールセンター24」

介護が必要になっても住み慣れた自宅や地域の中で家族や地域の人たちとともに暮らしたいと誰もが望まれていることでしょう。そうした在宅生活を続けたいという高齢者やご家族の願いに応えるのが定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業です。

成光苑グループでは先駆的に同サービスを開始した岩戸ホーム・サンヒルズ紫豊館（京都エリア）と高槻けやきの郷

（大阪エリア）が同事業を展開しています。昨年11月の第15回研究発表会で、岩戸ホームの同事業部門スタッフの研究テーマ「残存能力を活かした自立への支援」が最優秀賞を受賞（3面に記事）、日頃の丁寧な取り組みの積み重ねが高く評価されました。この機会に京都、大阪両エリアの「定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所（あんしんケアコールセンター24）」を紹介しましょう。

先駆的にサービス開始、 質の向上を目指す

岩戸ホーム・サンヒルズ紫豊館
あんしんケアコールセンター24

岩戸ホーム・サンヒルズ紫豊館は、先駆的に8年前の平成24（2012）年6月にサービスを開始、ご利用者数も年々増加し、在宅サービスの品質向上を目指して活動しています。

この事業には「24時間365日」安心をお届けする4つのサービス、①定期巡回サービス ②訪問看護サービス ③オペレーションサービス ④随時訪問サービスがあります。

緊急時や急な介護が必要なときは、専用機器からの通報でオペレーターよりヘルパーに連絡し迅速に訪問対応できます。定期巡回訪問により生活全体を把握でき、信頼関係が築きやすくなります。さらに介護と看護の連携のもと体調の確認や緊急時の判断なども適格に行えます。

同事業所と同じ地域に住民票があり、要介護認定1～5の要介護高齢者となった場合などサービスの対象となることから「すぐ近くで、もしも要介護者の時に安心」とのご入居者もおられます。

地域（高槻市）に在宅され、介護に不安や悩みを抱えられている方は、気軽に問い合わせてください。

《お問い合わせ》

高槻けやきの郷

電話（072）662-5888

《お問い合わせ》

岩戸ホーム

電話（0773）33-3155

サンヒルズ紫豊館

電話（0773）34-0557



先輩からのメッセージ



浅田 祥平
ココリス
2020年度入社

障がい分野の難しさ、大切な時間の過ごし方学ぶ
いつか自分が入れたコピーをご利用者

—自分のどんなところが仕事に生かされていると感じますか？
おっとり、のんびりしているところがあります。ご利用者の気持ちに寄り添い、穏やかな雰囲気でお話できていると思います。障がい分野として専門的な難しい学びもありますが、先輩スタッフに支えられ、日々仕事の中での様々な経験が財産

—学生のみなさんにメッセージを
福祉系以外の学部を卒業したこともあって、この仕事を通して人との関わりが大切、時間の過ごし方も大切だと実感しています。学生時代まで何不自由なく生活してきた自分でしたが、ご利用者と接するうちに有意義な時間、時間の大切さについて深く考えるよう

—産になつていて、このことを感じています。
入社後にコピーに興味（趣味）を持ったのも、ご利用者とのティータイムで、その時の過ごし方からヒントを得たからです。いつか自分が入れたコピーをご利用者にも提供したいと考えています。



安田 萌恵
認定こども園 一津屋愛育園
2020年度入社

おっとりしてますが、負けず嫌いです
経験重ね「保育士っていい仕事だな」と実感

—自分のどんなところが仕事に生かされていると感じますか？
マイペース、おっとりしていると、言われることが多いですが、負けず嫌いな一面もあります。保育をする中で、自分が描いている保育にはまだ届いておらず、悔しい思いをすることもありますが、同時に「もっと成長して一人前の保育者になりたい

—奮い立たせて頑張っています。
—学生のみなさんにメッセージを
保育者を目指す中で、就職活動で不安な気持ちになることもあるかと思いますが、私の経験では、不安を無くす方法として保育園（現職場）でアルバイトをすることにした。子どもと接する機会も増え、園の雰囲気

—就職できたことはすごく幸運だったと思います。
私は保育者二年目、課題もたくさんあります。そんな私にも、子どもたちは笑顔を見せてくれ、話せなかつた子どもが話しかけてくれるようになり、子どもの成長を日々感じられ嬉しい気持ちになります。大変な思いや経験を「自分」が「保育士っていい仕事だな」と実感しています。

ここに一息を マインド・ストレッチ

ライフ・ステージ舞夢の
舞鶴エリアスタッフ対象に

ライフ・ステージ舞夢は舞鶴エリアスタッフを対象に「マインド・ストレッチ」を「一息いれてみませんか」を開催しました（11月19日）。講師は「陽光」の浜田陽光氏。スタッフたちに、気分転換とあわせ「マインド・ストレッチ」自らの感情と上手に向き合う方法を、知る時間を設けたものです。

浜田講師はこのストレッチについて、①自分の感情に気づく、②感情を認める、③整理する、④意味づけを変えようという4つのポイントを指摘、具体的かつ体験型の手法を指導されました。物事を見る枠組み「フレーム」を変え、別の枠組みで見直し、出来事も前向きに捉え直す「内容リフレーミング」を実践しました。

小4年生対象に認知症

サポーターキッズ養成講座

加佐地域包括支援センターのスタッフ3名は、舞鶴市立岡田小学校の4年生12名を対象に「認知症サポーターキッズ養成講座」を行いました（11月24日）。地域の員でもある児童たちに認知症に対する理解を深め、助け合う社会の大切さを学んでもらうのが目的です。

座学ではよりわかりやすく理解してもらえよう「ちびまる子ちゃん（漫画アニメ・ドラマ）」を題材に寸劇を交えて行われ、熱心にメモをとる児童も見られました。また、グループワークでは積極的に発言、「認知症の人の手助けをしたい」、「将来そういう仕事もやってみたい」といった感想も聞かれました。



加佐地域包括支援センター
のスタッフ3名

相談援助実習指導について 大阪人間科学大で講義

せつつ桜苑の松田有里施設ケアマネジャーと藤本俊介摂津市老人福祉センター（受託）担当は、大阪人間科学大学で社会福祉士を目指す学生約10名を対象に、相談援助実習指導（必須科目）の講義を行いました（11月2日）。

実習指導講義は施設見学など例年の現場体験ではなく、学内での振替授業となりました。同施設は特養、通所介護、訪問介護など多様な高齢者事業を展開していますが、他職種と連携しながらご利用者の生活を支えていること、自治会活動にも積極

的に参加し地域の一人としての役割を果たしていることなどを説明。また、同施設入居者と学生をオンラインでコミュニケーションを図る機会も設けました。



せつつ桜苑から
スタッフ派遣



「日本語能力試験受験対策講座」を実施
ライフ・ステージ舞夢「つぼみの会」の4名受講



ライフ・ステージ舞夢が開設当初から行っている「つぼみの会」（在日外国人支援活動）では新たな取り組みとして「京都いろ

は日本語学校（京都府綾部市）」の協力で「日本語能力試験（JLPT）受験対策講座」を昨年11月から12月にかけて開催、4名が受講しました。

同会は在籍する在日外国人メンバーの日本語能力向上のため、成光苑スタッフと一緒に日本語学習を進め、日本国際教育支援協会など主催の同試験合格に挑戦しています。さらに高いレベルにも合格することが自信や外国人指導者として可能性に繋がることから、今回、同校による専門的な受験対策講座を受講することになったものです。

より高いレベルの日本語能力習得を目指す